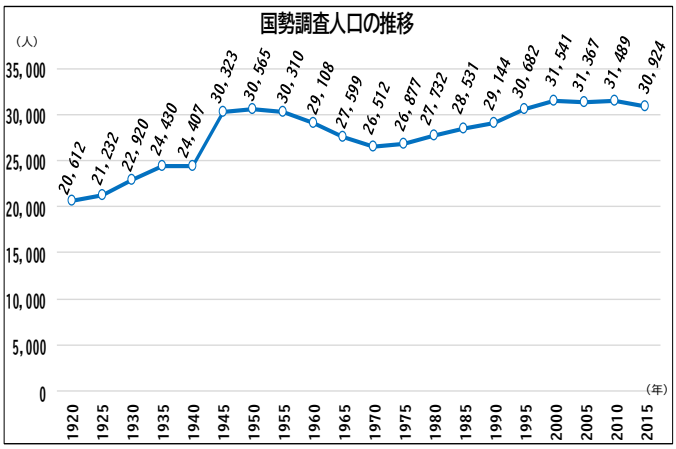
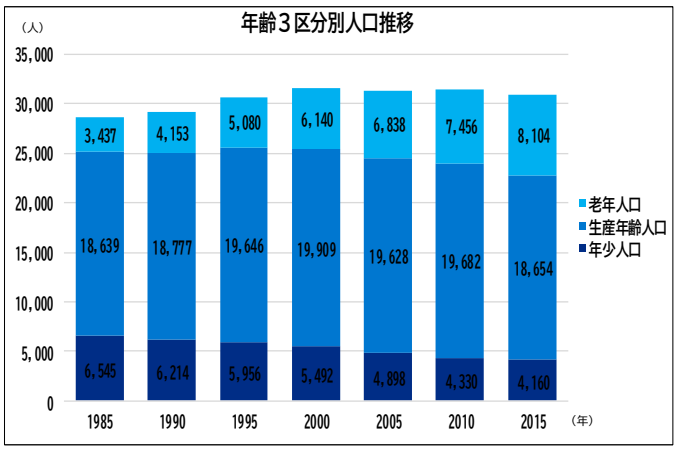
本宮市人口ビジョン(2020改訂版)【概要】

人口の動向分析

■人口（年齢３区分別）の状況

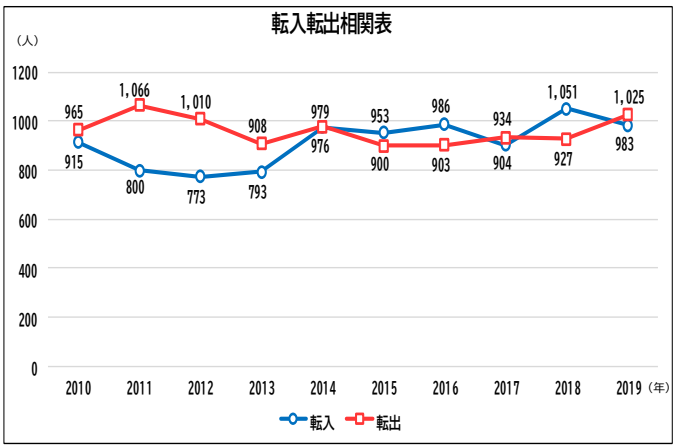
国勢調査における本市の人口は、平成7（1995）年から現在まで30,000人以上を維持しています。年少人口（15歳未満）は年々減少しており、平成12（2000）年には老年人口の割合を下回りました。一方、老年人口は増加傾向にあり、平成17（2005）年には老年人口割合が21.8%となり、超高齢社会へ突入しました。

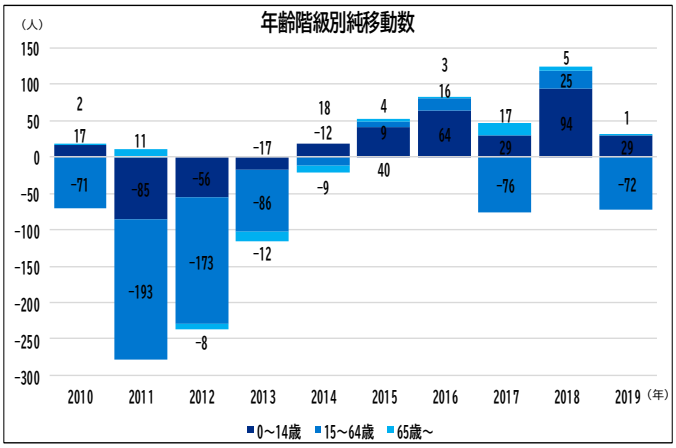




■社会動態（転入転出）の状況

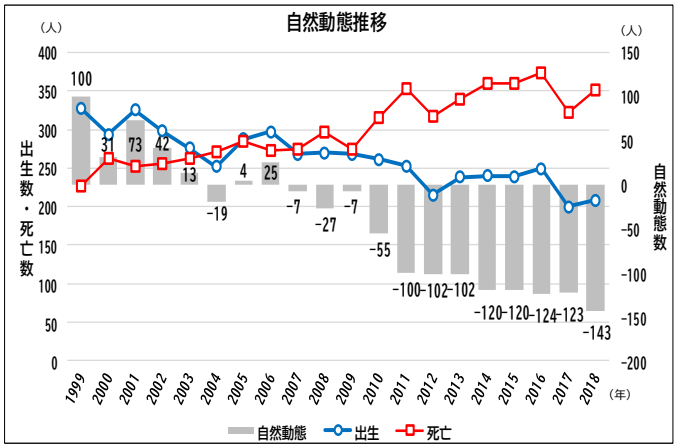
東日本大震災及び原発事故直後と比較すると、平成26（2014）年以降、プラスを維持しており、本市の住みよさのPRや移住・定住施策の効果が現れてきています。また、年齢階級別についても同様、平成23（2011）年に年少及び生産年齢の転出超過がみられたものの徐々に回復している状況にあります。

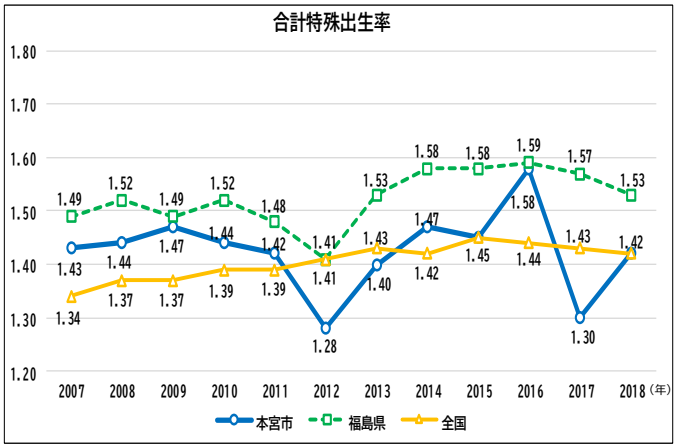




■自然動態（出生死亡）の状況

出生数は、減少傾向が続いており、平成29（2017）年には200人にまで減少しました。死亡者数は、増加傾向であり2010年以降は300人を超えています。出生数が少なく、死亡者数が多いため、自然動態人口は平成19（2007）年以降、マイナスを記録しています。1人の女性が生涯に産む子どもの数を示す合計特殊出生率は、東日本大震災及び原発事故直後の平成24（2012）に過去最低の1.28を記録しましたが、その後回復し、平成30（2018）年には1.42となっています。





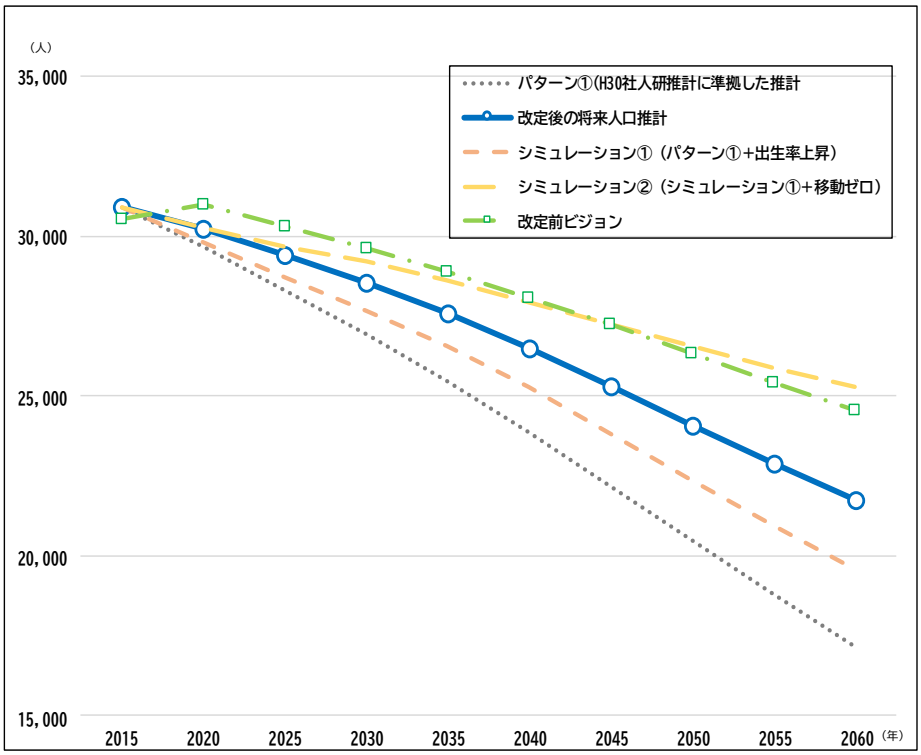
本宮市人口ビジョン(2020改訂版)【概要】

将来人口の推計と分析

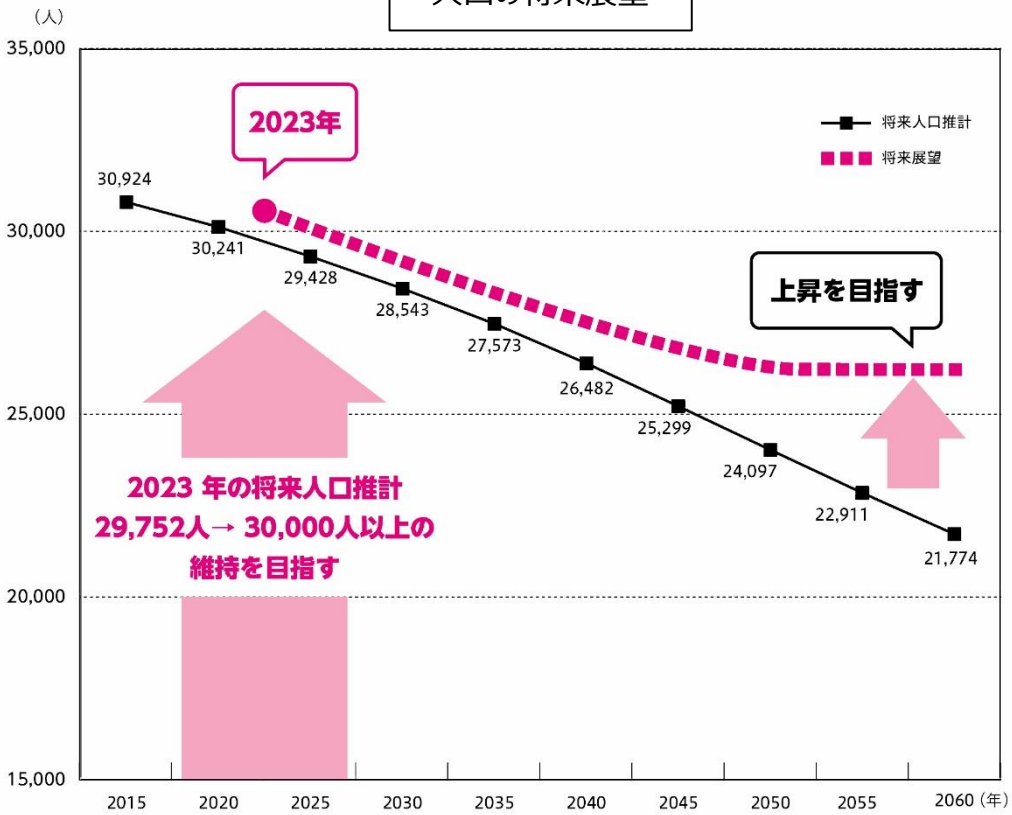
本市においては、原発事故前の転入転出者数に大きな差がなかったことから、福島県全体での移動率による推計では、実態よりも人口減少が加速することから、人口の移動を加味しない封鎖人口による推計としています。

○パターン①：直近の合計特殊出生率や福島県全体の生残率及び移動率に基づき推計されているため人口減少が加速し、2060年には17,159人にまで減少すると推計しています。
○シミュレーション①：パターン①の条件に合計特殊出生率の上昇が加味されています。2030年まで上昇し、2030年以降の合計特殊出生率が2.1で推計しており、2060年には18,218人にまで減少すると推計しています。
○シミュレーション②：シミュレーション①の条件に移動率がゼロの条件で推計されています。2060年には24,728人にまで減少すると推計しています。

将来人口推計



人口の将来展望

本市の将来人口推計では、目標年次となる2060年に21,774人に減少することが見込まれています。これは、人口の移動を加味しない封鎖人口による推計であり、自然動態の減少抑制対策及び社会動態の増加対策を講じることにより、将来人口推計を上回るよう上昇を目指していくものとします。

人口の将来展望